

## TOP MESSAGE

### Newsletter 発刊に寄せて

一般社団法人 日本看護管理学会理事長 **武村 雪絵**

このたびのNewsletter創刊号の発刊を心より嬉しく思います。本学会は会員数が6,200人を超え、学術集会の参加者も年々増えるなど、看護管理への関心の高まりと学会の責任の重さを実感しています。Newsletterを通じて、会員の皆様に様々なトピックスをお届けできることを期待しています。

人口構造の変化や社会保障改革、感染症・災害の頻発や地球環境の変化、そして不安定化する国際情勢の中で、効果的かつ組織的に、持続的に、看護の力を人々に届ける看護管理の重要性は一層高まっています。そこで本学会では、これからの活動指針を明確にするため、将来構想委員会を設置し、2030年に向けた将来構想を策定しました。これから、学会誌や学術集会の充実、研究の推進、看護管理者の能力開発への貢献、政策過程への参画、看護管理の実践知の集積などに取り組んでいきます。これらの活動には会員の皆様の参画が欠かせません。第29回学術集会では指定インフォメーションエクステンションを開催し、将来構想の報告と皆様との意見交換を行います。ぜひ会場でお会いしましょう。

広報・学術情報委員会 委員長 **荒木 暁子**

Newsletter創刊号を手にとっていただき、ありがとうございます。日本看護管理学会広報・学術情報委員会では、広く学会員に学会の活動を周知し、より活用いただくために、Newsletterを年に2回（夏、冬）発刊することといたしました。臨床現場の課題がどのような研究に結実するのか、また、学会誌に掲載された論文が現場でどのように活用されているのか、学会主催の研修や地方会などを会員がどのように活用しているのか、などについて様々な角度から会員間の橋をつなぐような情報交換ができるものとしていきたいと思えます。ご意見、ご要望などをご遠慮なくお寄せください。

## PROJECT

### 委員会活動

委員会では、看護管理に関する情報提供、研修・セミナーなどの企画・運営を行なっています。

教育委員会 委員長

**井部 俊子**

### 教育委員会

#### 2025年度 プログラム開催予定

下記URLよりご覧いただけます。

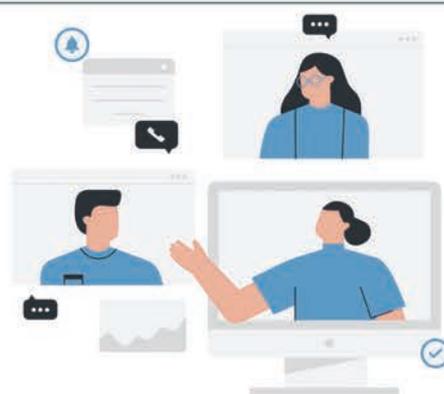
<https://janap.jp/seminar/seminar-2507-2603/>



日本看護管理学会教育委員会では、「コンピテンシーを基盤とした看護管理者研修プログラム」を企画し運営しています。この研修は、2014年度に試行事業を行い、2015年度から本格運用を始めて、今年で10年目を迎えます。プログラムは、スポンサーらの「コンピテンシー・モデル」に基づいて、19のコンピテンシーの基礎知識を学習し、事例を用いて応用力をつけ、日常の管理実践を行う管理者の「装置」として体得してもらうことを目指しています。

2025年度の研修から、「アドバンスコース」を設けました。これまでに本研修に参加した受講生が、さらにブラッシュアップするためのプログラムです。コンピテンシーという概念をもとに行動することで、すぐれた看護管理者の成功要因が何かを知り、取り入れることができます。さらに自身がどの行動を強化する必要があるのかがみえてきます。19のコンピテンシーを意図的に用いることができるようになると、あなたも“最強の看護管理者”になることでしょう。

令和7年4月15日、東京大学にて、同大学医学系研究科 社会連携講座「ナースングデータサイエンス講座」の開設記念シンポジウムが開催され、参加いたしました。特別講演では、武村理事長より、多くの看護管理者が臨床現場の課題解決に向けてエビデンス構築に貢献したいという意志を持っていること、しかし一方で臨床現場は多くの要請に対応しており、データ提供に伴う負担が大きくなっていることに触れ、その軽減に向けた工夫が必要であると力強く語られていました。



当日の動画や資料は以下よりご覧いただけます  
<https://nds.m.u-tokyo.ac.jp/news/nds-ev-20250415/>



## 第28回 日本看護管理学会学術集会に参加して

第28回 日本看護管理学会学術集会  
 会期：2024年8月23日（金）～24日（土）  
 会場：名古屋国際会議場

千葉大学医学部附属病院 今井 陽子



現場で感じていた課題を整理し、昨年の学会で活動報告を行いました。ディスカッションでは他施設の管理者や研究者から多様な視点や共感を得て、自施設では見えていなかった気づきや改善のヒントを得ることができました。持ち帰った学びを部署内で共有し、看護師の自律につなげる仕組みづくりや、看護実践の質を高める取り組みに活かしています。学会は、管理者としての視座を広げる貴重な機会であり、これからもこのような自分にとっての学びの場を大切にしていきたいと思えます。

## 編集後記

看護現場の課題が複雑化・多様化する中で、私たち看護職及び看護管理者には、的確な判断と柔軟なマネジメント力がこれまで以上に求められています。そのためにも、研究によって得られた知見を実践に生かし、また現場の声を研究に反映させる双方向の循環が、より良い看護の提供と組織の成長をもたらす、ひいては当学会の目的でもある人々の健康とQOLの向上に寄与することに繋がると考えます。

看護管理は管理者だけが行うものではありません。現場と研究を結ぶ架け橋として、看護管理者のみならず全ての看護職に当学会の知見を役立てて頂けるような情報提供を目指してまいります（広報・学術情報委員会 安藤弓子）



円滑な情報提供と利便性向上のため  
 今後のニュースレターは  
 学会ホームページより  
 ダウンロード形式でご提供  
 いたします。



Newsletter への問い合わせ

一般社団法人日本看護管理学会 広報・学術情報委員会 <https://janap.jp/contact/>